

6割は「安全性に不安」

キューサイ分析
研究所意識調査

生活者は食品購入で「鮮度」「国産」「食品添加物」を重視していることが、「食の安全性に関する意識・実態調査」(キューサイ分析研究所、10年3月公表)で明らかになった。調査対象の約60%が食の安全性に不安を持っており、「畜肉」「複合加工食品」「野菜」は不安度合いが高かった。企業の安全性への取組みは80%以上が「よくなった」と評価しているが、半数はさらなる充実を求めている。

果物、穀類で50%以上になった。畜肉・牛乳・卵は動物用医薬品等の残留、魚介類は「食中毒」という回答が最も多かった。加工食品は菓子・パン、肉製品、水産加工食品、農産加工食品、複合加工食品で「食品添加物」が50%以上、他の加工食品でも「食品添加物」が他の要素を上回った。

一方で「低カロリー」「見栄えがよい」「調理に手間がかからない」「調理由手間」が増えた。合計56.9%を占めた。「家庭での料理」「価格が手頃な国産品」は「増えた(やや増えた含む)」という要素が強い。「変わらない」がほぼ並んだ。逆に、購入が「減った」や「減った(含む)」という比率が高かったのは「外食」46.2%、「価格が手頃な輸入食品」36.7%、「冷凍食品・レトルト食品」27.3%、「惣菜」27.0%。

「鮮度」「国産」「食添」「重視

(1)安全性に対する不安 食品の安全性に関して「不安を感じる」7.9%、「やや不安を感じる」51.3%、計59.2%が不安を感じている。「あまり不安を感じない」18.6%、「不安を感じない」1.1%は20%弱にとどまった。

(2)不安を感じる食品 「不安を感じる」「やや不安を感じる」の合計が多かった食品は、生鮮食品では①畜肉65.9%②野菜54.3%③魚介類52.4%。加工食品は①複合加工食品

(肉まん、海老グラタンなど)56.3%②肉製品(ハム・ソーセージなど)49.2%③水産加工食品(めんたいこ、かまぼこなど)44.9%が上位を占めた。不安を感じない(あまり不安を感じない含む)の比率が高かったのは「酒類」61.1%、「飲料」58.0%、「めん類」「乳製品」48.4%、「牛乳」45.9%。

(3)不安に感じる要素 食品ごとに最も不安を感じる要素を調べた。生鮮食品では「残留農薬が野菜

価格が高くて購入する」が最も多かった。価格と要素の関係を「価格が安い」「価格が適当」「価格が高い」と答えた。生鮮食品は「価格が高い」と答えた人が増えた。加工食品は「価格が高い」と答えた人が増えた。生鮮食品は「価格が高い」と答えた人が増えた。加工食品は「価格が高い」と答えた人が増えた。

「無添加の食品」「生産者情報わかる食品」「信頼できる銘柄の食品」が「増えた」と答えた。生鮮食品は「無添加の食品」が「増えた」と答えた人が増えた。加工食品は「生産者情報わかる食品」が「増えた」と答えた人が増えた。

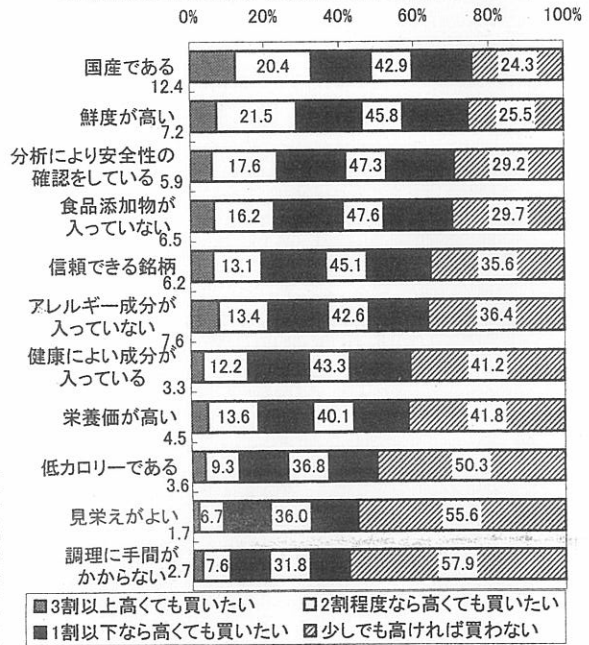
食品企業の安全性に対する取組みは「よくなった」と答えた人が増えた。生鮮食品は「よくなった」と答えた人が増えた。加工食品は「よくなった」と答えた人が増えた。

食品企業の安全性に対する取組みは「よくなった」と答えた人が増えた。生鮮食品は「よくなった」と答えた人が増えた。加工食品は「よくなった」と答えた人が増えた。

食品企業の安全性に対する取組みは「よくなった」と答えた人が増えた。生鮮食品は「よくなった」と答えた人が増えた。加工食品は「よくなった」と答えた人が増えた。

食品企業の安全性に対する取組みは「よくなった」と答えた人が増えた。生鮮食品は「よくなった」と答えた人が増えた。加工食品は「よくなった」と答えた人が増えた。

食品購入時に重視する要素ごとの価格プレミアム



■3割以上高くても買いたい □2割程度なら高くても買いたい
■1割以下なら高くても買いたい ▨少しでも高ければ買わない

あまあ満足している(含む)が85.7%と対照的な結果になった。

⑧安全性担保の主体・対策

生活者は食品流通経路で安全性担保の主体をどう考えているか。①食品メーカー43.9%②生産者団体21.3%③生産者21.0%④卸売業者8.3%⑤小売業者5.4%の順になった。

安全性担保のための対策としては①適正な食品情報を表示29.3%②トレーサビリティを強化22.4%③分析による安全性を確認21.6%④食品を扱う現場の衛生管理14.6%⑤農薬などを正しく使用し栽培(飼育)記録をつける12.0%となった。

今回の調査の概要▽調査対象は「スーパーマーケット」を週1回以上購入している624人(有効回答者数)▽調査方法「インターネット調査」▽調査期間「09年12月15日～16日」(板倉千春)